

2026

一般財団法人省エネルギーセンター 東北支部

【企業連携講座】

1/21
水実践で差がつく
EMS活用によるGX・CNへのアプローチ

14:00~16:15

WEBセミナー LIVE 配信

参加
無料定員
200名
(先着順)

主催：一般財団法人省エネルギーセンター 協賛：東北電力株式会社

エネルギーの「見える化」は、もはや省エネの出発点として当然のステップとなりつつあります。
 今回のセミナーでは、EMS（エネルギーマネジメントシステム）の導入によって得られるエネルギーデータを、いかに「行動」や「成果」に結びつけていくかに焦点を当て、GXや脱炭素に向けたEMSの実践的活用法について紹介します。
 さらに、協賛企業からは、EMSの具体的な内容や活用手法等をご提案します。皆さまの省エネ推進のヒントになれば幸いです。

カリキュラム

※本セミナーは、「Zoom」によるLIVE配信のセミナーです。
 また、内容等が変更になる場合があります。

講演
1GX実装の全体像
現場から始める省エネ・電化・再エネの3階層モデル

14:00~

講演：一般財団法人 省エネルギーセンター

GXやカーボンニュートラルの取組みは「省エネ・電化・再エネ」の3階層で整理することで方向性が明確になります。
 本講演では、工場・大型施設の実務に基づき、現場で“今すぐ着手すべき優先順位”と、寒冷地ならではの視点から脱炭素を進めるポイントを具体的に紹介します。

講演
2『エグゼムズSOLA』と『エグゼムズwith A』
CN達成に向けたロードマップと高機能EMS導入事例のご紹介

14:50~

講演：東北電力株式会社

CN達成の入口となるGHG排出量の自動算定、さらに排出量削減に向けたロードマップを作成できる「エグゼムズSOLA」。そして、空調の自動制御により省エネとDRが実現できる「エグゼムズ with A」を解説します。

講演
3情報開示の潮流を踏まえた
企業・サプライヤーに求められるCN対応

15:30~

講演：アビームコンサルティング株式会社

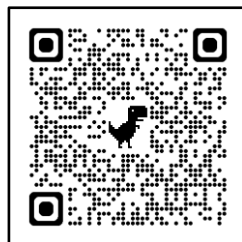
SSBJ開示基準の義務化に伴い、Scorp 1、2だけでなく、Scorp 3 開示も必須になり、企業からサプライヤーへの脱炭素の働きかけも活発化します。
 情報開示の潮流を踏まえ、企業から求められるCN対応について解説します。

↓【申込方法】↓

右のQRコードをクリックまたは読み取りにより表示されたWEBフォームからお申込みください。
 申込み確認後、申込み締切日以降に、事務局よりZoomの招待メールを送信いたします。

【注意事項】

- ・本セミナーに参加するには、パソコン等をインターネットに接続できる環境が必要です。
- ・セキュリティの関係などでWEBフォームがご利用できない場合は、下記「お問合せ先」のメールアドレス宛てにお申込みください。
- ・講演テキストの事前配布は行いません。

申込
締切日
1/15

お問合せ先

一般財団法人省エネルギーセンター 東北支部 講座担当

TEL: 022-221-1751 E-mail: thk@eccj.or.jp

〒980-0811
 宮城県仙台市青葉区一番町
 三丁目7-1 電力ビル本館8F